

■Jリーグのシーズン移行について、検討状況の説明

まず、私たちが、Jリーグと他のJクラブの皆さんと検討している内容を、皆さまにご説明させていただきます。項目によっては、アルビレックス新潟ではどのような影響があるのかのお話しはいたしますが、これから皆さまからご意見を頂戴する前提として、できるだけフラットな目線でお伝えしたいと考えています。投影する資料は、Jリーグがマスメディアの皆さまへ説明する際に使用しているものになります。少し、お話しを聞いていただく時間が長くなりますが、よろしくお願いいたします。

1. 『シーズン移行』とは？

まず、前提となるシーズンの移行とはどういうことか。シーズンが移行した場合、現在のシーズンから、どのように変わるのかをご説明します。こちらが、現在、私たちが過ごしているサッカーのシーズン。

次に、一つ目のシーズン移行案、A案。今のシーズンで、12月1週目～2週目までで終了していたところを、移行した場合は12月3週目～4週目まで行うため、今の日程から1～2週間伸びています。1月はウィンターブレイクで、試合を開催しません。2月にも1～2週前倒しして長く開催し、その分6月と7月に休むというカレンダーになっています。そして、本年6月に、新たな案としてB案が作成されました。こちらは、12月と2月が現在のカレンダーと変わらない案となっています。

Jリーグとしては、サッカーをするシーズンが完全に変わってしまうということではなく、実際にサッカーをプレーするシーズンは大きく変わらないという認識です。また、いずれの案においても、降雪エリアでの降雪期のホームゲーム開催は想定されていません。

A案の場合、新潟は、年内の公式戦終了後、12月20日頃と思われませんが、そこからオフ、1月上旬にチームを再度立ち上げて、高知キャンプに向かいます。そこからリーグの再開に臨みますが、降雪・積雪に伴い新潟もしくは、高知や福島で過ごすこととなります。A案の場合、再開は2月10日頃となりますので、キャンプ後も新潟を離れてトレーニングする可能性は高いと考えています。

B案の場合は、12月5日頃に公式戦がいったん終わるので、そこからトレーニング。12月20日頃に年内の練習を終了。1月中旬からチームが再始動し、キャンプに向かうというイメージです。公式戦終了後の降雪状況によっては、年内の練習環境が問題となる可能性もあ

ります。

天候次第ではありますが、キャンプ期間が増える影響により、降雪期だけで約7~9百万円程度が追加でかかるという試算を行っています。そこに、6~7月のシーズンオフのキャンプ費用も追加されることとなります。

6月には、それぞれ、A案とB案について、Jリーグが「日程くん」と呼ばれるシミュレーターを回し、実際にどのような日程が組まれるかを、いったんシミュレートしました。

新潟は、降雪期にホームゲーム開催ができません。A案ではウィンターブレイク前にアウェイ3連戦。ブレイク後に、さらにアウェイが3連戦という日程になっていました。B案の2月は、現在のシーズンと同様、2月の下旬にアウェイが2連戦となっていました。

2.なぜ『シーズン移行』を検討しているのか？

外部環境の変化をきっかけに、日本のサッカーにおいて最適なカレンダーを考えるタイミングだと、Jリーグは捉えています。

外部環境の変化とは何を指しているのか。一つはアジアチャンピオンズリーグ・ACLのシーズン移行です。ACLがシーズンを移行したことで、Jリーグにとっては2シーズンにまたがる大会になりました。具体的には、グループステージを23年のチームで戦い、ラウンド16以降を24年のチームで戦うこととなります。

また、クラブワールドカップが4年に1回、32チームの大会になります。24-25シーズンからはACLの大会構造も変化します。こういった大会に勝ち抜くことで、当該クラブだけでなく、リーグ全体の価値が高まると、Jリーグは考えています。

また、代表チームの活動が優先される期間『インターナショナルウィンドウ』についても変更の予定です。現状、3、6、9、10、11月で代表の活動が優先されていますが、26年からは、9~10月の期間が統合され、4試合を行うことができるようになります。現在のシーズンでは、9~10月に優勝争い、昇格争いが盛り上がっていますが、そのタイミングで中断期間が増えることも大きな観点だと、Jリーグは捉えています。

こうした変化があるなかで、最適なカレンダーは何なのかを議論することになりました。プレーする選手・スタッフにとっての最適。応援してくださるサポーターの皆さまにとっての最適。支援いただくパートナー、自治体、メディアの皆さまといったステークホルダーにと

っての最適。クラブ経営にとっての最適。最終的にこういったカレンダーが日本サッカーの発展にもっともよいのか、という観点で議論しましょうということで、私たちアルビレックス新潟もそこに参加しています。

3. 『シーズン移行』すると何が起きるのか？

続いて、Jリーグが『シーズン移行』によって実現できるとしている点について、お伝えいたします。一方で、さまざまな懸念事項も存在しています。シーズンを移行するメリットとして、(1) 暑い中（6～9月）の試合数の減少、(2) ACL シーズンとの一致、(3) 欧州シーズンとの一致が挙げられています。

1 点目について、現在のシーズンは暑い中での試合が多く、『インテンシティの連続性がある魅力的なフットボールで国際競争力を高めること』を阻害している可能性がある。暑い中での試合を減らし『世界と戦うフットボール』を追求しましょうという説明を受けています。

2 点目について、シーズン移行を検討する理由でもありましたが、ACL シーズンと異なることが編成面で大きな障害だと、Jリーグは捉えています。ACL とシーズンを一致させることで、ACL を勝ち、世界と戦うクラブワールドカップという舞台へ出て、Jリーグ全体の価値を高めるという話。

3 点目については、Jリーグのシーズン中に『有力選手が移籍してしまう』ことが、大会価値の向上を妨げている可能性があり、これを減らしたいとしています。また、カレンダーを一致させることで、欧州からの選手・監督の獲得がしやすくなるという面もあり、リーグの競争力向上へも寄与する、としています。

これら、Jリーグが実現できると掲げているものと同時に、『シーズン移行』には、様々な懸念事項があります。

暑い中での試合を減らす一方で、寒い中での試合数が増えます。新潟だけでなく、Jリーグサポーターの皆さまの観戦環境に影響が出る可能性があります。そして、私たち新潟を含む降雪地域の対応です。降雪期間にホームで何チームが試合をできるのか。アウェイを連続して戦う数はどの程度になるか。冬の練習環境の問題。冬のキャンプが増えるなかで練習環境をどう構築するか。

移籍関連では、ヨーロッパと一致する一方で、ブラジルなどとはズレることになる点、また移籍金の収益については、欧州とシーズンがズレているからこそ発生しているという面もあります。また、ウィンターブレイクを設けることで、シーズンの開催期間が現在よりも約

1ヶ月短縮されることによる影響。これは、連戦による選手の負担。シーズンが長く中断することによる強化面への影響。サポーターの皆さまの観戦環境への影響も懸念されます。

また、パートナー企業の皆様や自治体などさまざまなステークホルダーとの年度が異なること。特にスタジアム確保の観点からも懸念があります。

私たちのホーム・デンカビッグスワンは、長い間の調整や他競技団体のご厚意もあり、例年10月にJリーグ以外の利用希望を取りまとめていただいた後に、翌年1月にJリーグの日程が決定後、Jリーグの公式戦を優先して、他の利用希望との調整をいただいています。本当にありがたいことだと感謝しています。

シーズン移行した場合は、7月初旬にリーグ日程が固まることとなります。他のスポーツやイベントも新潟にとって重要な文化の一つですので、そちらの予約が優先されるべきだと思いますが、私たちにとって日程調整はより一層困難なものになります。

そして、移行期の対応。最短で26～27年に移行するとすれば、25年のシーズンが1.5年、もしくは0.5年になるので、その時にどういった形で大会を行うのか。

以上の内容について、それぞれのシーズンにどういったメリットと懸念点があるのか、Jクラブが意見を出し合って検討をしている状況です。

4.現在の検討状況

ここからは、現在の検討状況についてのご説明となります。

2月頃から意見交換が始まり、4月・5月で検討の進め方の確認を全クラブで行っていました。5月の段階で、今後判断するために必要な項目が50個ほど洗い出されました。そして、Jリーグによる『フットボール観点でのメリット』の確認が、5月の時点で行われています。この『フットボール観点でのメリット』について、当社はやや異なる観点を持っていますが、それは後ほど、代表の中野からお話しさせていただきます。

6～8月で洗い出された項目に対する検証を、4つの分科会でおこなっています。項目に基づき、フットボール、事業・マーケティング、降雪地域、経営管理の4つの分科会でメリットの確認や懸念点の提示がありました。

分科会を通じて、Jリーグは、分科会は『シーズン移行』の賛否を問うものではなく、それ

それぞれのシーズンの特性を研究する場だとしています。賛否を問う前にしっかりと情報を精査する、その上で判断していきましょうとしています。

そして、今後は「Jリーグは何を目指していくのか」、「その目指すものを実現するためには、どのようなカレンダー、どのようなシーズンが最適か」、という議論に推移していきます。

4つの分科会では、ご覧のような項目について話し合われています。冒頭、お話しした、試合日程シミュレーションに基づいて議論をしています。

フットボール分科会では、この後、簡単にご紹介しますが、フットボールの水準データに関する意見交換。自治体の方々とカレンダーが大きくずれることによる、スタジアム確保の問題。事業・マーケティングの分野では『シーズン移行』が、クラブの収入にどのような影響をもたらすのか。降雪地域分科会では、練習施設の確保、追加発生するキャンプの負担など。経営管理の観点では、決算期の変更や損益計算書への影響などについてです。

例として、フットボール分科会の資料となります。

こちらは、2022年のJ1リーグのデータに基づき、夏季の走行距離やインテンシティの高い走行距離が、開幕期の2月を基準としたときに落ち込みを見せるというデータです。季節の影響だけではなく、シーズンが進行することによる疲労ではないかという意見もあります。また、定量的なデータでの分析だけではなく、選手や監督スタッフがどのように感じているのか、といった定性的な面でも検討が続いています。

試合日程シミュレーションについても、簡単にご紹介いたします。

Jリーグでは、シーズンを移行した場合と、移行しない場合について、それぞれ複数年の試合日程を作成しています。移行しない場合は、26シーズンから32シーズンまで。移行する場合は26-27シーズンから31-32シーズンまでシミュレートしています。現在、Jリーグは、移行する場合の最速のタイミングを26-27シーズンと設定していますので、そこからのシミュレートとなっています。

長期間のシミュレートをする理由としては、移行した場合、6~7月の期間で国際大会にシーズンの前後を挟まれる年があるからです。前後にワールドカップやアジアカップがあるなど、全部で6つのパターンがあり、それにあわせて、移行する場合、しない場合のシミュレートを6年分行っています。

シミュレートは、基本的にリーグ戦を対象に行っています。天皇杯の決勝がいつになるのか、

カップ戦、ACL といった要素を含めると非常に複雑になるということで、現時点ではリーグ戦のシミュレートのみが示されています。

ご覧いただいているように、リーグの開幕がいつになるのか、終了タイミングがいつになるのか。また、シーズンオフの長さ、そしてシーズン中のブレイクの長さ。その2つを合わせた休みの長さが比較されています。シーズン移行しない場合のシミュレートには、サマーブレイクが含まれていませんが、分科会では昨今の気象状況をふまえ、シーズンを移行する、しないに関わらず、サマーブレイクを設けるべきとの意見も出ています。

サポーターの皆さまにとって重要な部分としては、平日に開催されるリーグ戦の数が挙げられます。

こちらについても、シミュレート上ですが比較されています。当然、プレーする期間が短くなれば、平日開催が増えることになり、各種大会を勝ち進むことによっては、非常に多くの連戦を戦うことになります。

ここに、降雪の問題も関わってくるようになります。降雪期にリーグ戦が開催される場合、降雪地域のクラブはアウェイゲームとなります。移行した場合、降雪地域のクラブでは、12月に連続したアウェイゲーム。ウィンターブレイクを挟んで、2月からまた連続アウェイゲームという可能性があります。

5. Jリーグ・日本サッカーが指すもの

4つの分科会はそれぞれ3回の開催を予定していましたが、その3回目が、まもなく終わります。今後は、Jリーグの実行委員会、理事会に舞台を移して「Jリーグとして何を指していくのか」「そのためにどのような試合日程、カレンダーが必要なのか」について統合的な議論を行う予定になっています。

まずは、Jリーグ・日本サッカーの現状認識について。一つは、「アジアで圧倒的なリーグ」になること。「欧州リーグ選手とJリーグ選手による日本代表でワールドカップベスト8以上に進むこと」。もう一つは、「競争の段階に入ること」です。Jリーグがスタートした当時、欧州のトップリーグとは経営規模において、大きな差がありませんでした。欧州のトップリーグが成長した理由として、「大きな競争があったから」とJリーグは捉えています。そこで、Jリーグも競争の段階に向かいたいという話です。3点目は、冒頭にもご説明したACL。ACLで勝って、クラブワールドカップに進出し、世界のチームと戦うことで、Jクラブのトップ層がナショナルコンテンツとして輝き、それが他のクラブを照らすように

Jリーグの価値を高めると、Jリーグは考えています。

いま申し上げた現状認識のなか、Jリーグとしてどのような戦略で、何を目指していくのかという整理を進めています。議論中のものになります。

昨年、Jリーグは2つの成長戦略を打ち出しました。『トップ層がナショナルコンテンツ、グローバルコンテンツとして輝く』、『60のクラブがそれぞれの地域で輝く』の2つです。さらに、その戦略を実現するために、『世界と戦うフットボール』、『海外からの収益獲得』、『競争環境の構築』、『各地域での圧倒的な露出』という4つのテーマを置いています。

具体的な施策が数多く挙げられています。

例を挙げますと、配分金ルールの変更では、J1比率の向上が挙がっています。このルールの変更が『競争環境の構築』につながると、Jリーグでは考えているということです。そして、そういったもののなかの、施策の一つとして『最適なシーズンの選択』があるという位置づけです。

最後になりますが、Jリーグの示す「試合日程を考える上での要件」がこちらになります。大きく4つに分かれています。

国際カレンダーの影響、4~3月期による日本の文化、そして雪の中では試合開催ができないこと、これらは変えられない前提条件であるとしています。

2番目は選手・スタッフの観点。フットボールの水準向上、大会の公平性、酷暑や連戦の回避による安全性の確保。

3つ目にファン・サポーターの皆さまに、どのようにして魅力的なフットボールを提供するのか。観戦環境、観戦に適した気候。

4つ目がパートナー、メディア、自治体などの皆さまへ、できるだけ多くの価値を提供すること。こういった要件を整理しながら、『最適なシーズンの選択』に向けた、統合的な議論が、今後、Jリーグの理事会、実行委員会で行われていくことになります。

以上が、Jリーグで現在行われている検討、議論の状況となります。この検討に参加するなかで、アルビレックス新潟として、どのような意見を申し上げてきたか。今後、どのような考えをもって統合的な議論に参加していくのかについて、ここからは、代表の中野が皆さまにお話しをさせていただきます。

■代表取締役社長 中野 幸夫 より説明

いまご覧いただいたような、資料に基づいて、60 クラブが参加して議論を進めているところ。非常に言葉的には、どなたも素晴らしい文言だとお感じになる方が多いのではないかと。一方では、課題もあると感じるのではないかと思います。映像から私どもの思い、立ち位置を皆さんと一緒に共有できればと思っています。

(映像)

この映像はこの間の新国立の試合です。私が撮ってきた映像です。この 28 年の歴史の中でこういう光景が作られております。感情的になるものがありますが、皆さんのお力添えのおかげで、よくここまで来させてもらったと思います。

(ガンバ大阪戦で掲出された横断幕の写真)

一方ではサポーターの皆さんが、ホームの試合で、これだけ多くのコメントを出してくださいました。伺ったところでは、この生地の調達に時間がかかって、この白布が届いたのは夜の 12 時くらいで、そこから朝までかかってサポーターの皆さんの想いを書いてくださいました。サポーターの皆さまの文言の良し悪しはともかく、選手、チームだけが戦っているのではなく、今日こうしてお越しくくださるサポーターの皆さんと一緒に J リーグの試合が構成されていると、私は思っております。今日この時間まで、いろいろな報道資料や新聞社、いろいろな方々が取材してくださいまして、いろいろな観点から言葉が飛び交っております。

試合会場でサポーターの皆さんがこうしたコメントを出すことについての賛否が、部分的にはありました。「なんでクラブがあんなことをさせるんだ」と。私は、これ自体が J リーグのあり方だと思っております。当然、誹謗中傷、暴力はいけません。ただ、熱い想い、自分たちが考えていること、これが表現できる場であってほしいと思っております。そういった意味では本当にありがたい風景だと、ありがたい行為だと心から思っております。本当に感謝申し上げます。

(シーズン移行日程について)

この A 案ということで、冒頭に私ども降雪地域がびっくりしたのが、12 月も中盤まで行います。2 月も頭から行いますというシーズン移行の話があったものですから、当然、我々は雪が降るとき、積もるとき、積もらないときがあるのでしょうかけれども、12 月になると、そういった準備をして、(試合が) できる、できない。(雪が) 降ったら大変だという生活を余儀なくされているわけです。2 月も頭からはホームでできません。そうすると、先ほど風間がお伝えしたように、このシーズンですと 12 月は新潟から県外に出て練習をすることに

なります。

2月の頭から（試合を）やるとなると、今は高知さんによせてもらっていますが、大体1月の10日過ぎにキャンプに出かけてシーズンの準備をすることになります。ですから、このときに試合をすることは、当然降雪地域、我々だけではなく、山形さんも日本海側あるいは東北のチームさんも同じようなことになります。そういった状況の中で、B案が出てきたという経緯もございます。Jリーグさんがいいとか悪いとかではなく、いろいろな課題点を検証する中で、そういった地域の状況を検証されて、その後このB案というものが出てくるわけです。

正直に言って今現在、移行する、しないも含めて、何か答えを明確に持っているというわけではなくて、こういう置き方をする中で、（試合を）できるかできないか。一貫して私どもは、冬には試合ができないと申し上げています。では、試合会場を試合ができるように直せばいいじゃないか、あるいは練習会場を直せばいいじゃないかというお話もあります。日本は北から南までございます。雪が降るところ、降らないところ、日本海側、太平洋側、まったく生活文化が違う国であります。スタジアム、練習会場を良くすればという昔からの議論もありますが、糸魚川の方がビッグスワンまで来るとご苦労、あるいは雪かきで試合どころでないという生活。これは太平洋側、雪の降らない（地域の）方々には到底理解できない。想像がついても理解できない部分があります。ただ、チーム数や絶対的な数から言うと、我々は少数派に入るのだらうと思っています。しかし、我々は、これが新潟であり、これが我々の生活文化である。そういったことを訴え続けてまいりました。

そのような中で、できないことはできない。無茶を言って、駄々をこねているわけではありません。できないことはできないのだ、ということを主張させてもらっています。そのなかで、B案で「今の時期と合わせたら、やる期間は変わらないよね」ということに変化しています。

ただ、A案にするかB案にするのか。あるいは、移行するかしないかも、まだ確定してない中ですが、言葉が悪いですけど、「A案はとんでもない」と言って主張をするなかでこういった案（B案）が出てきた経緯がございます。そうすると、「今と同じだから変わらないよね」と。ここだけ見ると、そういう議論になって、ここについては、「今もそうでしょう」ということになります。

ただ、問題はサッカーをプレーする期間が短くなる。そうすると平日開催、連戦が多くなります。この期間はしないという理由は、6月から9月まで暑い時期はサッカーを避けるべきだという文言で抑えるわけですけども。確かに今は暑いです。台風とフェーン現象が重なっているからだと思いますが、暑いです。では、6月と7月は暑いから（サッカーを）しません。でも、8月から開幕します。そこから始めないと、終わらないからです。5月に終わら

ないという現象が起こりますので、8月は1番暑いときに試合をやります。ただ、試合数は一緒ですから。私がこの間の会議で申し上げたのは、「試合がないだけで、選手とチームは休みますか?」と。その8月の暑い試合に合わせてトレーニングをするわけです。昨日も一昨日も、明日の試合に向けて暑い中やっています。明日、勝つために暑い中トレーニングをする。強度の調節はあるでしょうが、非常に健気な中で練習していたことも事実です。

そんな気候風土の中で、8月は(試合)をせずに、9月からやればいいという意見も技術面から出ております。そうすると、だんだんとやる期間が短くなるのがどうなのかという議論に移っていくわけです。「そもそも60クラブに増やしたのが悪い」だとか、「チーム数を減らして、期間の中でやればいいのではないか」という意見もないわけではないのです。

そういうことの是非を含めて、このシーズン移行、それから試合をやる期間の問題があります。ただ、皆さんの観戦のタイミングや定期的なホーム、アウェイのバランス。それから、選手はこの2ヶ月間を休んでいても、家にいてのんびりしているわけではないのです。本当に短期間、休暇を取って、試合にシーズンに合わせて強度を調節しながら、練習をずっとしていきます。この長期のシーズンオフとブレイクが、本当に日本サッカーの技術向上につながるのだろうか、という疑問点を基本的に持っています。

こんなに長いブレイクでは、キャンプに行っていた方がいいと思う選手、家族と離れるのは大変だと思う選手。そういうこともあるかもしれませんが、彼らはプロです。やはり試合でいいパフォーマンスをして、結果を出すためにトレーニングを積むことが基本です。そういう意味では、シーズンオフとウィンターブレイクは相対的に短い方がいい。

結論めいたことを言いますと、私は今の2月から始まって12月に終わるという一貫したシーズンの中で、ワールドカップもあり、あるいはACLもありますが、やる期間が連続して長い方がいろいろと調節できるのではないかと考えております。これが私の答えです。ですから、「雪が降るからしない」とか、「暑いからしない」とか、これは気候風土の問題なので、どこを取るかという問題がありますが、やはり興行として日本の風土、文化の中で、どこに基軸を置くのか。その選択肢が多い方がいいと考えております。

シーズンを変えずに、シーズン移行をせずに、今のシーズンの中でやった方がいいと私は思っております。その意見を正面からぶつけないとと思っています。

日本サッカーが目指すところ。そういう意味では、Jリーグが、日本サッカーが目指すものということで、議論中になっていますが、まず目指すべきは、『アジアで圧倒的なリーグになることや、欧州選手とJリーグ選手による日本代表でベスト8以上になること。そこに到達したうえで、さらに高い舞台を目指していく。』これはどういう意味かというと、海外

に行っている選手が多くなっております。日本代表は、ほぼ海外組の選手です。そういった選手とJリーグの選手によって、日本代表はワールドカップベスト8以上になる。これは全体的な目標ですから、これを否定する人は、日本国内で誰もいないと私は思っております。これ自体を私も否定しているわけではありません。ただ、アジアで圧倒的なリーグになること。これはACLで勝つこと。そこを勝ち抜いて、クラブワールドカップに出ることを指すのだと思っています。これも否定することではないと思います。しかし、リーグがいま言っている「ACLに勝つこと。それが日本サッカー全体を光らせますよね。Jクラブにとっていいですよ」という置き方自体には、非常に納得感がありません。

J120、J220、J320、60クラブになりました。私は大きなピラミッドの成長の中で、代表チームが、アジアでチャンピオンになること。これが、あるべき姿だと思っております。そういった全体バランスの中で、我々も1999年にJ2に入れさせていただいて、皆さんと一緒に時間をかけてこの立ち位置まで来て、今日があると思っております。そうしたチームが、60になって確かに地域背景や、人口集積や、気候、風土、文化、全部違いますが、我々は「地方でも、あの新潟でもJクラブができたんだ」。そして胸を張って、「今J1にいるんだ」というこの歴史観。そして、我々はもっと成長していきたい。我々もACLに出たいと思っています。そういうクラブになるためには、私は日本の気候風土、歴史、文化、行政年度、学校体制も含めて、変えられるものと変えられないものを見極めが非常に重要なのではないかと思っております。

そういった意味で、「圧倒的なリーグとは、どういうことなのだろう」と。私は、競争がある世界の中で、日本のJリーグの試合を大勢の方が楽しんでくださる。競争ですから、入れ替え戦も過酷です。昇格するときは楽しいです。降格するときは苦しいです。そういった喜びと苦しみを、経験しながら成長してきた。その背景には、地域があり、そこを目指す子どもたちや指導者、学校制度があります。そのような様子が、全体的に成長していくことが、目指すリーグなのではないかと思えます。

違った見方をすると、今度はアジアでは、中東との戦いが待っております。ある選手へ700億円でオファーしたけれど、来なかったとか。ついこの間も70億で選手を獲得したとか。そういう中東のマナーですね。そして、ACLのレギュレーションがオール外国籍選手でもいいというふうに変わります。中東マナーとの戦いになる可能性が濃厚です。お国柄も違うし、経済背景も違うし、考え方も違う。そんな中でJリーグから出て、そこに勝つということも求められてきます。そういうチームを生むこと自体が、我々のJリーグの理念の継承と積み重ねだと思っています。お金で決まるのであれば、という世界ではないと考えています。でも、お金は必要だとも思っております。ただ、「アジアで圧倒的なリーグになる」ということ。その押さえ方が、非常に明確でないということは、会議の中で強く申し上げております。

30年が経ち、プレミアリーグとは経営規模が開いています。ここは、国の成り立ち、システムの成り立ち、放映権というものと大会方式の違いがある中で、地域的なもの、サッカーの歴史、構造的なものの違いがあると思っております。特に、放映権の違いが、クラブ経営の違いに関わってきております。

我々はDAZNさんというありがたいパートナーさんがついて、放映権料も上がりましたけれども、それがこれ以上増えるかということも含めて、皆さんの視聴数や我々の活動の認知度、こういったものに大きく左右されると思っております。どうしたら欧州と伍するのかという課題があることは認識しております。

単純にACLで勝てば人気上がるのかというのは、皆さんが決めることでありますので、シーズン移行したら、それが解決するという単純なものではないと。そのシーズン移行を議論するときに、変えられるものと変えられないもの、そこをしっかりと見極めて、議論すべきだと思っております。言葉でよし悪しを議論すると、それは夢があるものを否定する人はいないと思います。

競争の段階へ向かいたい。閉塞感があるという声も上がっており、世界と戦っていく環境構築が必要。このように考えると、誰も反対する人がいないと思います。閉塞感がある、これは後でご説明します。確かに日程の問題で難しい問題が潜んでおります。

それから、ACLの大会構造の変更や、クラブワールドカップに向けてアジアで勝ち、世界で戦うということはJリーグ全体の成長であり、トップ層がナショナルコンテンツとして輝くことを、実現していく上で重要となる。これも否定はしづらい文言であります。

Jリーグが目指すものとして、トップ層がナショナルコンテンツとして輝くという置き方と、60クラブがそれぞれの地域で輝くこと。この2つを目指すのだと置いています。誰も反対しません。こうあるべきだと思えます。

しかし、実際はヒエラルキーがあり、J3がありJ2がありJ1があること。去年、J2で優勝させてもらいましたが、どこのチームと戦っても遜色はありませんでした。我々が1番勝点をいただけた中で、優勝という結果が出ます。ですが、どのチームも必死で地域と向き合って戦って、それ自体が30年の成長だと思っております。我々もJ1に昇格させてもらって戦っています。見劣りはしないと思っております。ただ、もっと勝ち切るためには、工夫と経験といろんな要素がいるのだろうと感じております。この文言だけを見ると、世界と戦うフットボール、海外からの収益獲得、競争環境の構築、各地域から圧倒的な露出。文言的には、全然否定するものではございません。シーズン移行をすると、これが達成できるのかという

ことを、私は問いたいと思います。この文言自体が悪いとは、私は思っていない。8月に開幕して5月に終わる。プレーする期間が変わらないのに、変えた方がいいという。このロジックが見えません。

アンケートを取って検証しながら議論しているわけですが、国際カレンダーの問題は確かにあります。それから日本の4月、3月の日本文化、雪の中での試合開催ができない。これは強く申し上げているところです。やはり、日本のスポーツの成長過程の中で、学校スポーツ、企業スポーツから、我々のようなプロ興行をサッカー界につくった経緯があります。学校制度はずっと変わらないと思っております。そのような文化をベースにしながら、日本独特の強みを発揮しながら、アジアと戦うべきだと思っております。

あとは、選手の水準向上、定期的な試合の機会、高いインテンシティの試合、世界マーケットとの連動。このようなことが、シーズン移行でなるのか、ならないのかが論点だと思えます。大会の公平性、ホームアンドアウェイの適正な組み合わせ。どれも、みんなが求めることだと思っております。

皆さんにも関係する魅力的なフットボールの提供、アジアで勝ち世界と戦うJリーグ、高いインテンシティ、ゴール前で多くの攻防、観戦環境、観戦に適した気候。言葉はこのように置くのですが、実体が北から南まで全部違うなかで、我々の意見を申し上げます。アジアで勝ち、世界と戦うJリーグ、誰も反対しません。そうあるべきです。J3、J2となると、トップチームだけが光れば、みんなが幸せなんだというふうにも聞こえるので、それでいいのかという考えを持っております。一部のチームだけが、上だけが光ればいいというのではなくて、降格もあり、昇格もある中で我々は生かさせてもらっています。その中で戦ってアジアでチャンピオンになるために、ACLで勝つためにという努力と工夫は、これから我々もやっていきます。しかし、今の段階でシーズン移行することが、それに繋がるかこここの接点がどうしても見えません。ここだけが見えないので、私は今のシーズンで、選択肢が多い期間の方が、日本の気候風土、それから学校制度、社会制度もあわせて、スタジアムの確保も含めてそうですが、シーズン移行しなくても、アジアで戦うチームを排出できるのではないかと思っております。

あとは、パートナー、メディア、自治体などのステークホルダー。魅力的なフットボールの提供。アジアで勝つ姿。同じ文言を並べています。文言としては反対しません。ただ、具体的な方法論としては、違うのではないかと思っております。

そして、日程の問題になります。今は2月から始まり12月で終わります。シーズン移行が本当に日本のサッカーを、Jリーグを強くすることになるのかということ、強く訴えます。これだけ（ウィンターブレイク＋シーズンオフ）休むわけですから、選手目線にすると、選手

たちは、シーズンが12月第2週に終わったとしても、年末とお正月に少し休んで、またすぐキャンプに行くことになります。5月にシーズンが終わり、2週間ほどシーズンオフの期間に入って、暑い夏の開幕戦に合わせて練習をスタートする。2回の長い休息期間が要因で、短期間で試合日程をこなしていくことになり、選手はなかなか休めなくなります。そういう側面から、現在のシーズン日程の方が適しているのではないかと、訴えていこうと思っています。

現在のシーズンは、12月第1週で終わります。A案では、12月第4週まで試合をやることになりますが、我々は（ホームゲームを）できません。ウィンターブレイク後の2月第2週からシーズンを再開させるのがA案ですが、その日程でも我々はできません。そのことを訴えたところ、新たにB案が出てきました。B案では、12月の第1週の後にウィンターブレイクに入り、2月第3週からシーズンを再開する。これがA案とB案の違いとなります。

シーズン移行の議論当初はこのA案が広く知られることとなり、その情報を目にしたサポーターのみなさんが、「この案では、降雪期はどのようにしたら良いのか」と感じたと思います。そのような動きや声から、新たにB案が出てきたと思いますので、Jリーグが我々の情報、思いを聞いてくださっているのだと感じています。

J3が20チームになりました。J3とJFL間での昇格・降格が起これば、JFLは、今のままですと4月からのシーズンスタートになりますので、5月にシーズンを終了し、降格が決定したJ3のチームは、翌年4月のJFL開幕までリーグ戦がないという事態に陥ります。よって、JFLもJリーグに合わせてシーズンを移行する案も出ておりますが、現時点ではそこに関しては決まっていません。そして今度は、JFLに参入する地域リーグのシーズン日程を変えるかどうか判断しなければなりません。連動してずっと昇格・降格で地域からJFL、Jリーグと繋がっているこのサッカーカレンダーをシーズン移行だけの問題で、全部整えることができるのか。このような問題が潜んでいます。

降雪地域分科会は、新潟や山形など降雪地域のクラブだけでなく、他地域のクラブの方も参加しています。降雪地域のクラブはアウェイ・ホームでの連戦が続くような日程になる問題があります。雪が降るところに対応できたらシーズン移行をしようと、2017年でピン止めしていました。私はこれ自体も、そういう練習環境、試合環境ができたらいいとは思いつつも、試合会場まで来るアクセスなど、雪国の生活を知らない人の議論でピン止めたんだらうと思っています。そういった寒さに耐えられる施設になったらいいなという、理想論は否定するものではないと思っています。では、今、2年後にシーズン移行ができるかどうかという議論になると、なかなか難しい問題なんじゃないかなと思っています。

あとは、事業・マーケティング的に、本当にシーズン移行したら来場者の方が増えるのかと

いうこと。それから、パートナー、スポンサー、ステークホルダーが増えるのかということ。特に1.5年に移行期の問題。1年が2回分断される非連続なリーグで観客が増えるのかという、関心度の問題。これは大きな課題だと思っております。あとは、移行期の経営の問題。これは、ある意味では一過性のもものではあります。1.5(年のシーズン)がいいのか、0.5がいいのか、それぞれにメリットがあると思います。ただ、経営的に脆弱なクラブには、非常に大きなインパクトがあると思っております。

この間の分科会で、移行するという仮定で、0.5年がいいのか1.5年がいいのかが問われました。(いくつかの大会形式の案が提示されたなかで)J3のクラブでは、J1と戦える大会方式にしてくださいとか、また別のチームと戦うことに興味があると。そういう意見もあります。ルヴァンカップの大会方式が変わると聞いています。ある意味では、天皇杯もそういう大会ではあります。ただ、リーグ戦もそれでいいのかと言われると、我々はJ1にいるので、この強度の中で、緊張感のあるリーグ戦に臨みたいと思っております。J2のときはJ2でそうでした。それをシャッフルして、地域分散したり、カテゴリーをミックスしたりしてやったら、本当に皆さんは楽しんで見に来てくれるのか。ここには、疑問を持っております。ですから、どちらにするかという問題のときは、新潟として意見を申し上げたいと思っております。

ただ、ここで1つ考えなければいけないのは、我々もACLに行きたい。行くという前提で話をしますと、確かにこの外的な要因でACLの大会が11月の第2週、第4週と12月の第1週に入ってくる。現在の日程でやると、リーグ戦は12月の第1週で終わるという設定になっているので、優勝、昇格、降格を争う時に、ACLの予選ラウンドが入ってくる。そして、11月第3週～第4週にインターナショナルウィンドウが入ってくる。12月の第3週から第4週にクラブワールドカップが入ってくる。終盤戦のリーグ戦が、日程として収まるのか。最初、12月の第3週までやるという移行カレンダーだったのが、こういった大会が入ってくるのが明確になったことで、やはり12月の第1週で終わらなくてはならないと変わった可能性もあります。確かに、我々がACLに出場するという前提になると、中1日で試合をするのかという問題があります。

10月、11月にも、インターナショナルマッチデーが入ってきます。極端なことを言えば、いまより早くリーグ戦が終わるかどうかという議論もこれから出てきて、その分日程は過密になります。ただ、6月、7月を使ったら、移行するよりも最適なカレンダーを組めるのではないかということ、訴えていきたいと思っております。

移行すると、まさに今日(8月11日)あたりが第2節頃になるのだと思います。その前に、選手は暑い中で練習を積んで、開幕して翌年の5月で終わります。8月の1番暑い時に、インテンシティや走行距離が夏場に減ると言いながら、1番暑い時に試合をしなければなりません。5月に終わらなければならないからです。ここに矛盾があると思っております。今のシ

ーズンで、当然4年に1回ワールドカップがあります。オリンピックが4年に1回。そういう大会が入ってきます。それから、ACLがあるのも事実です。こういった国際カレンダー、それから、日本の学校制度や行政制度や気候風土を考えたときに、私は今のカレンダーの方が収まりもよく、分断がなく連続したシーズンの中でリーグ戦をこなしていく方が、合理的ではないかと思っています。

結論としては、私はシーズン移行に関しては反対です。

選手が移籍しやすくなると言われています。海外の監督、コーチ、選手が来やすくなるのも。海外の監督や選手が、来てもいいと思っています。獲るか獲らないかは、クラブの自由です。お金やタイミングだと思っています。新潟からは、海外に今年も（選手が）行きました。去年も行きました。

それは、皆さんにとっては幸せなことではないかもしれませんが、ですが、我々は彼らの夢であり、活躍する彼らを我々のクラブが育てたのだという自信や自負の中で、気持ちよく送り出して、彼らがさらに成長して、また新潟のサッカー、日本のサッカーに貢献してくれる。この循環を期待したいと思っています。

もっと多くの選手が（海外に）出ていってくれてもいいと思っています。ただ、それは急に起こることではなくて、事前の契約やそれ以前の準備の中で、ある程度想定されることなので、それなりの準備はできます。それに直面した皆さんは、残念だと思い、あるいはハッピーなことではないと思うかもしれません。それでも、そういったものを共有しながら、クラブは成長していきたいと思います。海外の監督も経験しました。いい経験だったと思っています。そしてまた、その継承をした今の監督が結果を出してくれたと思っています。

このようなことに常にチャレンジしていきたいと思っています。ただ、それがシーズン移行しなくてはできないのか、シーズン移行するとできるのかが、問われていると私は思っています。今のシーズンでもできると思います。あとは、ブラジルと一緒にですから、ブラジルの選手が来やすいとか、これがなくなるとか、ヨーロッパがいいとか、その議論を我々の構造の中で考えていけばいいことであって、日本の歴史と文化と行政制度と、そのなかで培われた経験値だと思っています。ですから、ヨーロッパと合わせる方がいいとは思っていません。カレンダーを見ても、我々は自分たちの国、制度、やってきたことの積み重ね、そういったものをもっと強みとしてやっていけばいいのではないかと思っています。

シーズン移行という課題について、雪の降らない地域の方々、降るところの方々、それからスタジアムの問題もあります。ずっと話すと、明日まで話してしまうのですが、サッカーの専用スタジアムを持っているところは、日程調整の必要がないので、あまり大きな課題と

なりません。そうでないところは大きな課題です。新潟はどうかというと、大きな課題です。いろんな競技団体と協議しながらシェアさせていただいて、清五郎で試合をやらせてもらっています。そういった意味では、我々は5月に終わって日程調整ができるかということ、非常に難しいです。それから、降雪に耐えられるかどうかということ、(建設) 当時は冬にやることを想定していなかったのも、屋根から雪がコンコースにあえて落ちる仕組みになっています。落雪の危険を避けるためです。そこを改修すればいいかということ、お金の問題もあり、すぐにはできません。我々の日程が決まるまで、どこの競技団体も使わないでほしい、5月に決まってから使ってくださいという、無茶な願いはできないと思っています。

Jリーグの理念は、いいサッカークラブを作ることではありません。他の競技団体と共有しながら、いいスポーツクラブになるということが、Jリーグ百年構想です。(デンカビッグスワンを使うのは) 我々だけではないし、陸上もラグビーも、他のイベントも、あるいは高校選手権も。そういった方々に関係なく日程を確保するためには、自前のスタジアムを持つ以外に方法がないと思っています。持てればいいと思っていますが、すぐにはできません。その現状を踏まえて、賛否の中で、その意見を申し上げているということ、ご理解いただければなと思っています。

説明したいことは申しあげました。これから皆さんのご意見を伺って、新潟の意見として、この議論にまた向き合っていきます。いろんな意見を聞かせていただきますが、平等でない世界の中で、何が1番いいかということを探しています。その中で、自分たちの経験値と、今後のことを考えて物を申し上げたいと思います。最終的にどうなるかはわかりませんが、皆さんのご意見を聞いて、一緒にこのクラブを発展させるための意見を伺いたしたいと思います。よろしくお願いいたします。